

巻頭言

病院長 清島 満

高山赤十字病院紀要43号をお届けいたします。この紀要には症例報告や研究論文、さらに研修医によってまとめられたCPCを載せています。興味ある症例については勉強の材料として、あるいは論文作成の練習の場としても活用してもらいたいと思います。

さて、2019年の医療界を騒がせた事例の一つは何といても厚労省による424病院の公表でしょう。しかし厚労省の本来の目的は2025年を見据えた機能病床数の適正化であり、統合合併はその一手段であるべきです。そういう意味では集約・統合を目的とするような発表（マスコミの報道姿勢にも問題がありますが）は避けるべきだったと感じます。指名された病院は驚くとともに不満が噴出させたのは当然でしょう。その後、判断根拠としたデータに不備があったとして424病院から7病院はリストから外し、約20病院が新たに追加されました。しかし騒動を避けるためか病院名は発表されませんでした。いささかドタバタ感が拭えませんが、実際に統合するかどうかは別にしてそれを議論のきっかけにして機能病床数の議論に持ち込めればいいのだと思います。各県で地域医療対策協議会が少なくとも年2回開催され、その下部組織である地域医療調整会議で具体的な議論がなされているはずですが、なかなか病床数の話までに到達することは難しいようです。県も努力はしていますが、強制力はないということで地域医療構想も遅々として進んでいません。公立・公的病院が2025改革プランを提出してからすでに数年経過しており、医療環境の変化から病院経営にも影響が出て、当時提出した数字の妥当性が失われている可能性があります。実際、当院はサイズダウンの方向性を打ち出しており、各病院でも今一度再確認の必要があろうかと思っています。

そのような検討をしていたところ、2020年に入ってから中国の武漢を発生源にした新型コロナウイルス（COVID-19）がpandemicとなり、日本でも感染者が急増して死者が増えています。一日も早くウイルス蔓延が終息することを祈っています。

最後に病院新築に関しては基本計画の大詰めに迎えており、様々な院内WGに参加して議論を重ねていただいた職員の皆さんに感謝を申し上げます。今後も高山市など行政側とも意見交換をしながら計画を進めていきたいと思っています。そして当院の「ふるさとを守る医療を目指して」を実践していきましょう。

